

私の心の中にもやさしい思いがありました。

私をお腹に宿したときの母の思いに心を向けてみました。お母さんはただ私が生まれてくることを喜んでくれているだけでした。素直ないい子になってねってただそうやって私を育てくれたのだと思います。人と競争し、人を見下し、人を責め裁き、お母さんをないがしろにしてきたのです。それでもお母さんはあなたはいい子だよって私を生んで育ててくれました。

お母さんは私を愛して信じてくれていました。神の子の心を信じてくれていました。それは田池留吉の心でした。田池留吉を見下し、田池留吉を認められなくても、田池留吉は私を受け入れてくれています。許して待っていてくれています。田池留吉の波動は私に伝えてくれているのです。あなたは本当は素直な人なんですよって、私はあなたを信じていますよって、私は自分が一番好きでもあり、一番嫌いでもありました。

嫌いで嫌いで突き放して突き放してきた私を田池留吉は、ただ待っているだけでした。やさしい思いで待っていてくれたのでした。長い長い時間待ち続けてくれていたのです。そしてこれからも待ち続けてくれている意識でした。お母さんでした。お母さんは私を待つて待つて待ち続けてくれていました。どれだけ裏切り続けようが私を信じ待ち続けてくれている意識でした。

お母さんの心に帰りたい、私のふるさとでした。お母さんの心は私のふるさとでした。